

Part3

WebサービスAPI勉強会

今回の目指すサイトのイメージ

今回作るサイトは「プラン比較」のための宿泊施設検索サイトです。すべての旅館・ホテル情報を出力をするわけではなく、プランが取得可能なところからデータを取得します。

検索条件の入力

エリア

日時・人数

検索条件にマッチした施設表示

ホテル名

プラン名

他APIのデータを取得して比較

?

?

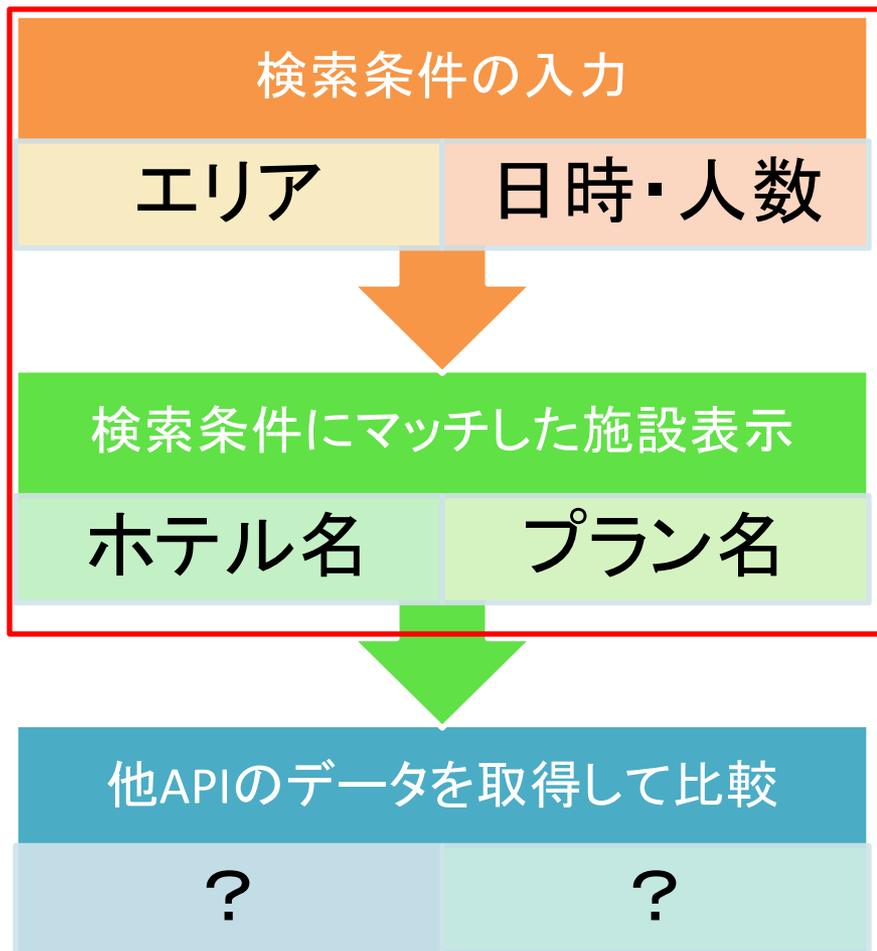
じゃらんや楽天トラベルなどに登録されている宿泊施設情報はプランが存在しないところも含まれます。

プランがある存在する旅館を検索するには「空室検索」のAPIを使用します。

(最初から日時・人数指定で空室検索させるということは、すぐに成約させることを目的とするサイトに向いています)

1時間目概要：エリア+日付+人数でプラン（空室）検索

まずはエリア+日付+人数という条件で空室検索を行います。空室があるホテルがあればそれを基準に他のAPIから空室検索を行って、プラン比較が出来ます。



1時間目ではじゃらんWebサービスを使ってエリア+日付+人数→空室検索→プラン（ホテル）を表示させてみます。

プランまで表示できたら2時間目ではその情報を使ってそのホテルの空室・プランを一覧表示させて比較します。その際、何らかの方法で同じホテルの情報を取り出します。

今回の特に経験すること

第三者が公開しているライブラリ（部品）を活用して短時間で効果的なWebサイト構築を行いましょう。部品やAPIを組み合わせることに専念してオンリーワンなサイト作りを目指します。



都道府県

三重県

大エリア

伊賀・上野・名張

小エリア

指定しない

人数 1 人 2010/05/13 検索



Webサービ



第三者が公開しているUIライブラリなどを利用して、使い勝手の良いサイトを短時間で構築します。

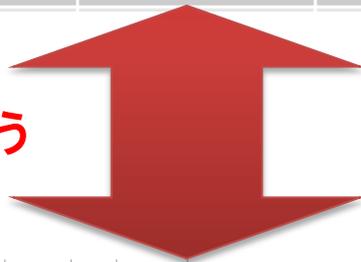
すべてを自力で作る必要がありません。

よく使われそうなライブラリ（部品）はすでに公開されている場合が多いです。その使い方を知れば本格的なインタフェースを持ったサイトを短時間で構築することができます。

他のAPIと組み合わせるときに発生すること

stay_date	宿泊開始日	宿泊開始日を指定します。	日付(yyyyMMdd形式) 最大5件まで指定することが可能です。 ※11月24日より、宿泊開始日の複数指定は廃止いたしました。 ※値を省略した場合は、宿泊日未定で検索を行います。 ※宿泊日未定で検索の場合、宿泊数の値は無視されます。
stay_count	宿泊数	宿泊日数を指定します。	1～9までの半角数字 初期値1

まったく違う



今回異なるAPIを同時に組み合わせる使っていきますが、その際にいくつか解決する課題が発生します。その一つがリクエストできる項目やパラメータ形式の違い。もう一つが返ってくる情報や形式の違い。情報の粒度が大きく異なる場合もある（商品名に宣伝文言を入れているところなど）。

それらを解決するためにデータの形式を変換したり、出力する際に、調整して表示するなど工夫が必要である。サイト訪問者にとってはバラバラのデータを見せられるよりも比較検討しやすいフォーマットで整理されているほうが、喜ばれそうです。

7	チェックイン年月日	checkinDate	date	○	本日日付	YYYY-MM-DD (*1)デフォルト値は、チェックイン年月日およびチェックアウト年月日の両方が指定されなかった場合にのみ適用されます。
8	チェックアウト年月日	checkoutDate	date	○	明日日付	YYYY-MM-DD (*1)デフォルト値は、チェックイン年月日およびチェックアウト年月日の両方が指定されなかった場合にのみ適用されます。

空室（プラン）があるホテル検索を作ってみる

前回まで物販系のAPIを使ってみましたが、今回は旅行系のAPIを使ってみます。大きく変わることは位置・場所という要素と日程、人数という要素が重要になってくることです。

リクエストURLの組み立て



UIライブラリを利用 New!



検索結果を表示させる

旅行系APIでも物販系APIと同様に同じようなやり方でリクエストURLを組み立てて情報を取り出すことができます。この基本的な流れは従来と変わりません。

旅行系APIでは単なるモノの販売と異なり、在庫（空室）の変動やエリアが重要視されます。それらもAPIを使って簡単に情報を取得することができます。

旅行系APIで出来ること

- ・ 宿の検索
- ・ 緯度経度+半径指定での検索
- ・ 日付や人数を指定しての空室情報の検索

今回は空いている宿を探すことにフォーカスします。

エリア

日付

人数

じゃらん空室検索API・リクエストURLの組み立て

今回はじゃらんWebサービスを使い、エリアから空室検索できるようにします。まずはリクエストURLの組み立てとそこから必要なパラメータを調べていきます。



じゃらんWebサービス/空室検索API

APIリファレンス

- じゃらん/宿表示API
- 空室検索API
- エリア検索API
- 温泉検索API

アカウント登録

- 退会

チュートリアル

- 利用規約
- ガイドライン
- 利用制限について
- エラーについて
- バージョンの管理について
- クレジット表示について

じゃらんWebサービス 空室検索API

空室検索APIは、じゃらん.netに公開されている宿泊施設の空室情報を検索する機能を提供します。

リクエストURL

`http://jws.jalan.net/APIAdvance/StockSearch/V1/`

リクエストパラメーター

パラメーター	項目名	説明	必須	値
key	APIキー	APIを利用するためのキーです。アカウント登録時に割り当てられるAPIキーを指定してください。	○	半角英数字16桁以下
reg	広域コード	各広域に割り当てられたコードで検索を行います。 ※ この項目を指定した場合、宿泊開始日 (stay_date) は指定できません。		
		各都道府県に割り当てられたコー	エリアから	エリアコード対応表を参照

検索結果ページから作りこんでいきます。ここで、必要なパラメータに一通り目を通しておくと、次のステップがわかりやすくなります。

検索パラメータに目を通して行くとこんな条件を付けてコンテンツをリクエスト出来るんだ、という気づきが得られます。後日、サイトを充実させるためにも、出来ることを知っておきましょう。

つまづくところはエリアコードをどこで知るか、ということです。

エリアコードを取得するAPIもあるのですが、エリアコードをいちいちAPIにリクエストせず知る方法があります。

方法については次のページでご案内します。

▽じゃらんWebサービス 空室検索API

<http://www.jalan.net/jw/jwp0100/jww0105.do>

地域を絞り込むUIライブラリを利用する

地域を絞り込むのに便利なプルダウンメニューを作成します。インターネット上で公式・非公式で公開されているものがあるので、活用して短期間で理想的なサイトを作っていきます。

都道府県

三重県 ▼

大エリア

伊賀・上野・名張 ▼

小エリア

指定しない ▼

検索



エリアコードは一見調べないとわかりませんが、エリアを絞り込むUI（ユーザインタフェース）が公開されている場合があります。

今回は「たたみらぼ」さんで公開されているUIを利用します。

参考：じゃらんWebサービス用お手軽ライブラリ - 地域選択プルダウン - を作ってみた

<http://www.tatamilab.jp/rnd/archives/000241.html>

提供されているUIはエリア情報をまとめた Javascript ファイル(.....js)とそれを呼び出す Javascript (.....js)の2ファイルで構成されています。これを使ってフォームを作成すると、エリアのidをフォームを使ってパラメータとして次の PHP ファイルに渡すことが可能になります。

注意！

開発中にテスト動作させるときはマイナーな地域を選択しないように。ホテルが無いエリアを選択した場合、テストになりません。

データが更新時はjsファイルを更新すること。

コラム：他のUIライブラリのご紹介

UIライブラリーを利用することで、複雑なインタフェースもカンタンに自分のサイトに設置することができます。うまく活用して、短時間でサイトを作れるようになります。

提供ライブラリ

各WEBサービスごとのライブラリー一覧ページへのリンクです：



RECRUIT WEB SERVICE	
共通系	
施設番号	<input type="text"/>
緯度	<input type="text"/>
経度	<input type="text"/>
検索半径(km)	<input type="text"/>
絞り込み条件	<input type="checkbox"/> 禁煙ルーム <input type="checkbox"/> インターネットが出来る部屋 <input type="checkbox"/> 大浴場あり <input type="checkbox"/> 温泉
キャリア	PC
取得件数	全件 (緯度経度入力時のみ有効)
緯度経度タイプ	世界測地系(度)
施設画像サイズ	中

検索

[もう一度条件を変えて検索](#)

ここで言うライブラリとは開発者が自由に利用できる部品と考えてください。各社がAPIを積極的に利用してもらえるように汎用的な部品を提供していたり、他のAPI利用者（開発者）が公開している場合があります。

リクルートUI

<http://mtl.recruit.co.jp/sandbox/rui/>

楽天トラベル (JSONP)

http://travel.rakuten.co.jp/web/service/sample/jsonp/simple_hotel_search.html

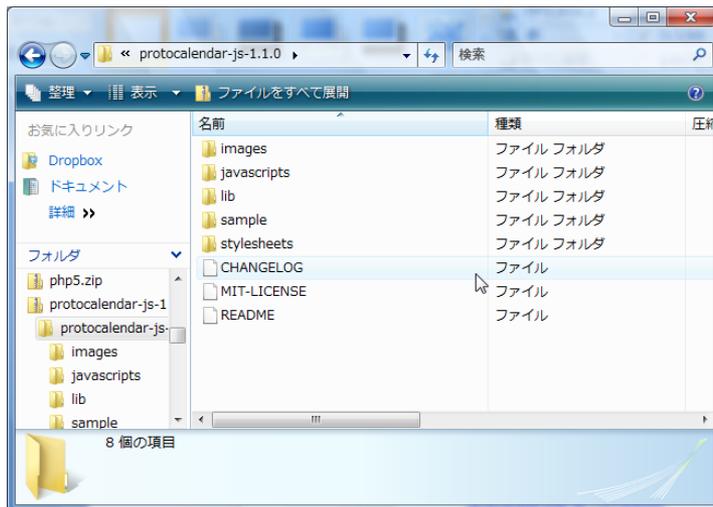
※PHPやPerlが動かないサーバでも検索結果が表示できる！

カレンダー式日付選択UIライブラリ

Selectタグで日付選択のためのHTMLタグを書くことは出来るが、クリックだけで簡単に入力できるようにします。



カレンダー形式だと週末など曜日感覚もわかり操作しやすい



入力した日付が正しいかどうかのチェックは

- 1.データを受けとったPHPでチェックする
- 2.データを送信する側でチェックする

の2通り考えられますが、後でチェックしたり、そのページでチェックしたりするプログラムを作るのが面倒です。最初から無効な日付が入力されにくいユーザインタフェースを使います。

日本人が作成した祝日にも対応したカレンダー式日付選択ライブラリを活用します。

▽Spookies Labs Blog ; シンプルな日付選択用ライブラリ「protocalendar.js」を公開しました

<http://labs.spookies.co.jp/2007/11/20/protocalendar-js-1.0-release/>

▽参考：年月日セレクトボックスを表示

<http://www.7key.jp/hp/js/datetime6.html>

GETでパラメータを受け取って変数に格納

UIライブラリを設置した後、どのようにパラメータが渡るか確認し、パラメータの値を受け取る記述を行います。

```
// パラメータの値を取得 (GET)
$pref=$_GET["pref"];
$l_area=$_GET["l_area"];
$s_area=$_GET["s_area"];
$page=$_GET["page"];
if(!isset($page) || $page == "") $page =
1;$start=$page*10-9;
$checkin_date=$_GET["japan_calendar"];
$room_count = $_GET['room_count'];
$adult = $_GET['adult'];
$stay_count = $_GET['stay_count'];
```

まず、UIライブラリで一度動作を確認し、そこにつけられるパラメータ名を書きとめておきます。具体的には実際に操作してみて、エラーは出ますがフォーム送信後の URL のパラメータの名前や値を確認します。

次にこれらのパラメータを受け取る流れをくみこみます。

例：\$area=\$_GET["area"]

この時変数名とパラメータ名をそろえておくと混乱が少ないでしょう。

日付の形式変換

日付の形式をAPIが認識できる形に変換します。

じゃらんの日付の指定方法は

- ・ 宿泊開始日→日付 (yyyymmdd形式)
- ・ 宿泊日数→1~9

楽天トラベルの日付の指定方法は

- ・ チェックイン年月日→YYYY-MM-DD
- ・ チェックアウト年月日→ YYYY-MM-DD



まず日付をUNIXタイムスタンプに変換します。その上で、各APIで扱う形式の文字列として変換します。

文字列の置換や操作などでもなんとかかなりそうですが、UNIXタイムスタンプとdate関数との連携で華麗にコントロールしていきます。UNIXタイムスタンプさえ求めることが出来れば、あらゆる形式の日付表現方法で表示することが可能です。

strptime(文字列)関数

文字列で表現された日付・時間をUNIXタイムスタンプに変換します。

date関数

UNIXタイムスタンプから指定された形式で日付の文字列を生成します。

変数・パラメータ管理表

変数管理表を作成することによって、不要な混乱を避け、冷静に、そして確実にプログラムを作りこんでいきましょう。

パラメータ名	変数名	内容	備考
pref	\$pref	都道府県	
l.area	\$l.area	大エリア	
s.area	\$s.area	小エリア	
japan_calendar	\$checkin_date	チェックインする日付/カレンダーで指定	※/パラメータと変数の名称が違う
room_count	\$room_count	部屋数	
adult	\$adult	大人の人数	
stay_count	\$stay_count	宿泊日数	
	\$jalandcheckindate	じゃらんチェックイン年月日	
page	\$page	ページ番号	
	\$start	ページで表示するデータを開始する位置	

扱うパラメータが多くなると、混乱したり、些細なミスに気づけなかったりします。それを防ぐために、扱うパラメータや変数について管理する表のようなものを作成しておくとう便利です。

変数やパラメータは1文字でも違うと動かないものです。一覧にした後、変数名やパラメータ名をコピーしながら作りこんでいくと、ミスを防ぐことができます。

ケアレスミスは意外と時間とエネルギーの浪費につながります。このように作りこむ体制を整えておくことが、作業効率化につながります。

また、変数名とパラメータ名をそろえておくと、わかりやすいです。

リクエストURLが正しく組み立てられているか確認

この XML ファイルにはスタイル情報が関連づけられていないようです。以下にドキュメントツリーを表示します。

```
<Results>
  <NumberOfResults>1321</NumberOfResults>
  <DisplayPerPage>10</DisplayPerPage>
  <DisplayFrom>1</DisplayFrom>
  <APIVersion>1.2</APIVersion>
</Results>
<Plan>
  <PlanName>お得な和室プラン(バス・トイレ共同)</PlanName>
  <PlanCD>00179031</PlanCD>
  <RoomName>和室(バス・トイレ共同)</RoomName>
  <RoomCD>0058451</RoomCD>
</PlanDetailURL>
  http://www.jalan.net/JwsRedirect.do?key=vir12148808ce&
  rd_key=MDAsbNkwMeEiMzAwOTU4LDAwNTg0NTEEsL_CvsiMSwvL_DEsL_CvsiL_CvsiNCvsiMg==
</PlanDetailURL>
<PlanCommonDetailURL>
  http://www.jalan.net/uv/uvp3200/uvw3201/init.do?yadNo=301858&planCd=00179031&roomTypeCd=0058451&rootCd=55&stayYear=&
  stayMonth=&stayDay=&stayCount=1&roomCount=1&adultNum=1&child1Num=&child2Num=&child3Num=&child4Num=&child5Num=
</PlanCommonDetailURL>
</Facilities>
  <Facility>和室</Facility>
  <Facility>部屋でインターネット</Facility>
</Facilities>
<PlanCheckIn>15:00</PlanCheckIn>
```

リクエストURLを組み立てた直後に

```
echo $url;
```

として、リクエストURLを表示させます。

表示されたURLをブラウザのアドレスバーに入れてXMLデータを取得して問題がないか確認します。

また出力されたデータの構造を理解しておきます。空室検索（プラン検索）では、ホテルごとに表示するのではなく、プラン単位で表示されることが特徴です。ホテルごとに表示するにはホテルIDを指定する必要があります。

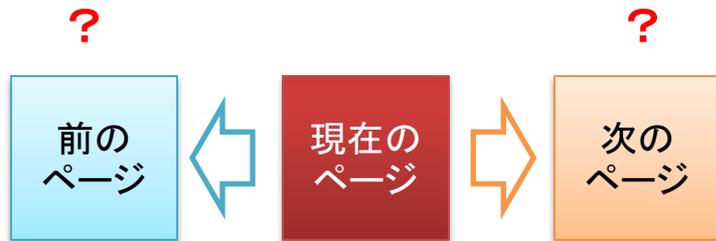
検索結果を表示させる

リクエストURLが正しく組み立てられたら、いつもと同じように検索結果を表示させます。取り出せる情報が物販系と異なるので、どういうレイアウトで表示させるか考えておきましょう。

リクエストURLの組み立てが完了したら検索結果をブラウザ上で表示させてみましょう。

XMLデータの階層構造を確認しながら、以前の勉強会と同じように情報を取り出して行きます。

検索結果ページを分割して複数ページ作成するには？



条件分岐の順番

1. ページ番号が設定されてない→初期値としてページ番号「1」
2. もし現在のページ数が「1」より大きい、つまり2以上であれば前のページに戻るリンクを書く
3. もし現在のページ数が総ページ数より小さいのであれば次のページに進むリンクを書く

リンクを書く際は検索パラメータを引き継ぎたいので、リンク先URLにパラメータを含めておく。

まず、ページを分割して表示するための情報を整理します。

- ・ 今いる場所＝ページ番号
- ・ 次のページがあるかどうか
- ・ 前のページがあるかどうか

次にそれらの情報がAPIから得られるかどうかの確認。なければ代替方法があるかどうかを調べます。

もし総ページ数がわかれば、今のページ番号と比較して、前後ページがあるか判別できます。

もし総検索結果数がわかれば、「総検索結果数÷1ページに表示する検索結果数」と計算すれば、総ページ数がわかります。

それらをまとめた関数を用意しているので、それを利用して情報を渡すだけで使えるようになっています。

2時間目概要：他APIと組み合わせる

他社のAPIと組み合わせていく方法のひとつとして、空室・プラン情報を複数サイトから取得して比較する仕組みを作ります。

検索条件の入力

エリア

日時・人数

検索条件にマッチした施設表示

ホテル名

プラン名

他APIのデータを取得して比較

?

?

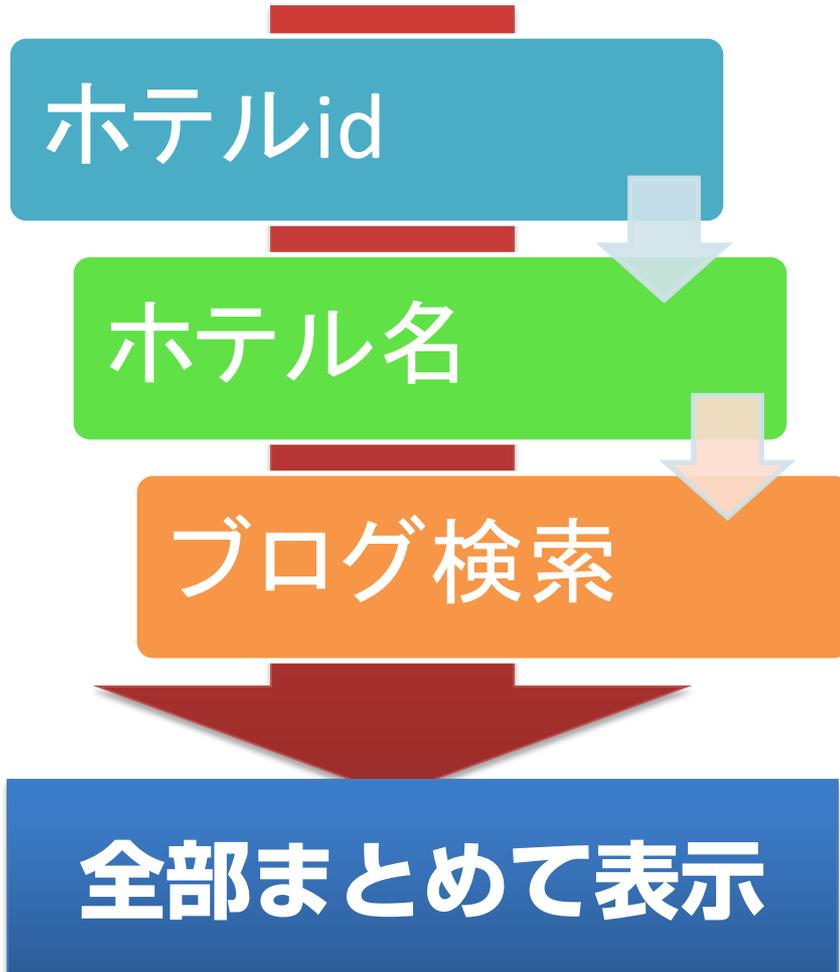
2時間目は他社のAPIと組み合わせていくことを実践していきます。

基本的にパラメータの書式やIDがJANコードのように共通化されていないので、特定のホテルをホテル名で紐づけて検索するのは、確実性に欠けると予想します（同名ホテルがある、表記ゆれがある・・・等）。

それらをどうやって解決するのかを考えていきましょう。

マッシュアップのカタチ：芋づる式

あるAPIから取得して得られたデータをもとに、さらに別のAPIへリクエストします。芋づる式に関連する情報を取得する場合に使います。



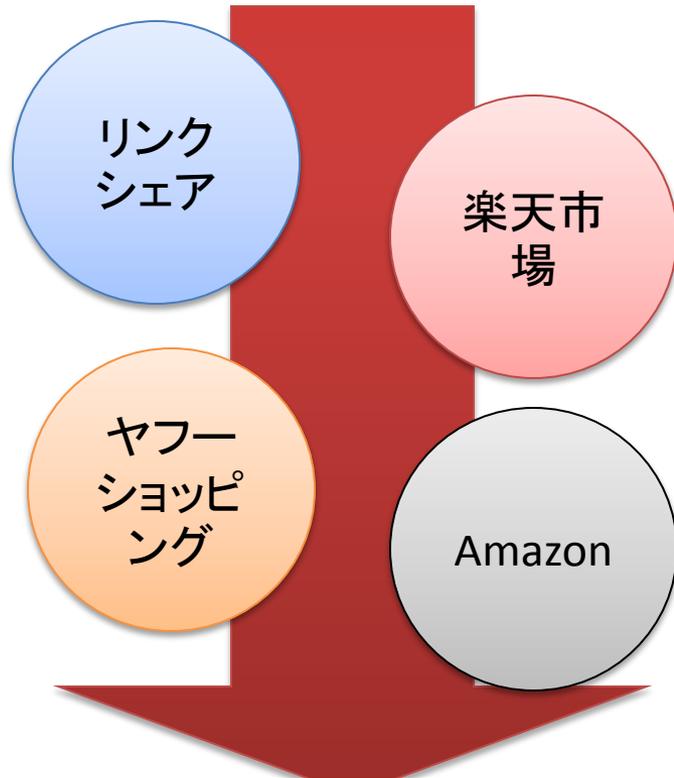
APIで得られたデータをもとに他のAPIへリクエストして関連した情報を取得して、同じ画面に表示させます。これは前回のショッピングモールのようにジャンルIDから子ジャンルを表示したり、ジャンルランキングを表示したりすることと同じです。

芋づる式検索は同じ会社のAPI内という制限は基本的にはありません。楽天で得られた情報をもとにヤフーのブログ検索APIで検索したり、といったことができます。

ただし、会社によってAPIの仕様が違うので、望んでいる結果が出るとは限りません。

一方、この方法にはリスクがあることも認識しておかなければなりません。どこかのAPIが動作しなくなったら、ページが表示できなくなるかもしれません。

マッシュアップのカタチ：



全部まとめて表示

ひとつのキーワードやJANコードなどを元に、同時に複数のAPIへリクエストしてデータを取得します。例えばJANコードでリクエストすれば同じ商品のデータを各ストア・ショップから取得することができます。価格比較コンテンツなどはこうやって作ることができます。

どこかのAPIが止まっていたり、商品がなくなってしまうても、他のAPIから商品情報を取得出来るので、「代替情報」が表示できる強みがあります。

特定のホテルだけのプラン比較表示

複数のAPIから特定のホテルだけのプラン比較表示をするには、それぞれのAPIで使われているホテルIDを使って表示させるのが一番無難そうです。

素泊りプラン(無線LAN無料)ネット接続。@じゃらんnet

税込価格:5,250円
部屋名称:和室6畳以上 無線LAN無料
和室でゆっくりお寛ぎください...
[予約する](#)

【価格重視】気軽に本格温泉♪素泊まりプラン！会議室70名・無線LAN完備無料@楽天トラベル

税込価格:5,250円
部屋名称:くつろぎの和室【素泊まり】
◆立地◆伊東駅から徒歩7分アクセス良好◆温泉◆自家源泉の2本で豊富な湯量です！24時間入浴をお楽しみください♪湯治にも好評を頂いております。-----●会議室(70名までOK)(※事前にご連絡ください)●無線LAN可●プロジェクター(1日8000円)-----
[予約する](#)

温泉1泊朝食付ビジネスプラン。ネット接続@じゃらんnet

税込価格:6,300円
部屋名称:和室6畳以上～10畳
自家源泉掛け流し。24時間入浴可...
[予約する](#)

今回は楽天を加えてじゃらんと2社でのプラン比較を行ってみます。

プラン比較の方法は単純ではありません。それは各APIで仕様・パラメータが違うだけでなく、入力したり出力される書式も異なります。基本的に出来ないのですが、出来る方法を考えていきましょう。

ひとつの案として、プラン一覧を表示する際にそのURLにじゃらんと楽天のホテルIDを交えておくことです。すると\$_GETで受け取ることができるので、それぞれのAPIへホテルを確実に指定してデータを取得することが出来ます。

特定のホテルと固定して比較表示させるブログパーツを作る場合はこの方法を使ったほうが確実に間違いがありません。

動作サンプル：

http://musilog.net/travel_plan_oudan/

アフィリエイトリンクにするには？

アフィリエイトASPではないところが提供するAPIにはアフィリエイトリンクを生成する機能がないことがほとんどです。ここではアフィリエイトリンクの組み立て方を説明します。

■じゃらん+リンクシェアの場合

→あとで書く

■じゃらん+バリューコマースの場合

出所：リクルートWebサービスを活かした
バリューコマース対応サイトを作ろう

<http://rss.rmix.jp/Ajax/vcwithrws20091009-3-091009091338-phpapp01.pdf>

p.49～p.51

■楽天トラベルの場合

リクエストURLにアフィリエイトIDを指定する。

宿泊プラン比較サイトを自動化できないか？

前の方法では手作業でパラメータを調べてリンクを作るか、データベースにそれぞれのAPIのホテルIDを登録して呼び出すしかなさそうです。しかし無理矢理PHPとAPIで作ってみましょう。

ブラックボックス

考え方としては異なるAPIで紐づけるには共通項を見つけて、芋づる式検索ができるとうまそうです。しかし、うまくいかないもので、ホテル名キーワード検索だと同じ旅館がひっかかる可能性があります。住所や電話番号でひっかけても表記ゆれの可能性もあり確実ではありません。

(電話番号の表記ゆれ、電話番号が別番号の可能性)

1. キーワード検索→検索結果から郵便番号が一致するものを拾う
2. キーワード検索→検索結果から電話番号が一致するものを拾う

ただしこの方法では精度はあまり高くないので、なんらかの方法が必要です。

3時間目：課題選択

① ブログパーツ

激辛

3時間目は課題を選択して実際に作ってみてください。わからなければ周りの人に聞いてみてください。

② WordPressプラグイン

辛口

基本的にはプラン検索の表示をブログパーツ化してみたり、WordPressプラグインにしてみましょう。

③ QRコード生成

甘口

プラン検索で楽天トラベルで「携帯用URL」を取得し、それをQRコードにしてみましょう。

ブログパーツ化を始める前に

ブログパーツにする方法はいくつかありますが、今回はJavascriptで読み込むタイプのものをPHPで作ることにします。

参考サイト：

▽ブログパーツの作り方『How to make blog parts』 | CREAMU
http://blog.creamu.com/mt/2008/08/how_to_make_blog_parts.html

▽PHP:JS(JavaScript)からPHPを呼び出しHTML上に出力する方法
<http://www.res-system.com/weblog/item/383>

▽YAHOO!ショッピングカテゴリー別ランキングブログパーツ - [Mu]ムジログ
<http://musilog.net/webdesign/web-service-api/yahoo%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%94%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA%E3%83%BC%E5%88%A5%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%96%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%91.php>

サンプルコード！？

多くのブログサービスASPでは、PHPが実行できません。JavascriptでAPIへリクエストする方法がありますが、ここでまたゼロから勉強しなおすのも大変です。

今まで勉強してきた流れをそのまま活用するためにも、あえて、PHPでJavascript呼び出しのブログパーツを作ることにします。

Javascriptは次回のGoogle Maps APIでメインに使う言語ですので、少しだけ勉強しておきましょう。

基本的に半角英数字記号、文字コードUTF-8、開業コードはLFとPHPと同じ環境にしておきましょう。コメントの書き方はおなじです。

Javascriptで文字を表示するには

Javascriptでブラウザ上に文字を表示するにはdocument.writeを使います。逆にこれさえわかっているならば、PHPを使ってJavascript経由でなんでも表示できてしまいます。

①文字出力を始める手続きをする

```
document.open();
```

scriptタグの確認

jsファイルの作成、document.write関数を使って文字列を出力します。HTMLタグを出力することも出来ます。

②文字列、HTMLタグを出力する

```
document.write( 'もじもじ' );
```

③文字出力を終える手続きをする

```
document.close();
```

(..)φメモメモ：エスケープするのが吉

PHPでJavascriptを生成するには

Javascriptで呼び出すときはそのままphpファイルを指定すれば良いのですが、PHP側で「このファイルはJavascript」と認識させる必要があります。

☆JavascriptをPHPの「echo」で出力させる

①PHPで出力する際、Javascriptと認識させるために

```
// javascriptで出力するときのためのヘッダー  
header("Content-type: application/x-  
javascript");
```

と記述する

②echoでjavascriptを表示させる

```
echo 'document.write(¥'<ol type="1">¥');';
```

Javascriptでパラメータを渡して表示してみよう

呼び出すphpのURLにパラメータを付ければ、PHPファイル側で\$_GETでデータを受け取ることができます。

WordPressプラグイン化の前に

WordPressのショートコードAPIを使ってプラン比較をプラグインで作ってみましょう。30分もあればカンタンなプラグインを「自作」できます。

①ショートコードAPIとは何かを理解する

②プラグインのひな型をもとに過去に作ったPHPコードを流し込む

③プラグインとして動かすための微修正を行う

ブログエントリ内で動的なコンテンツを出力できる（javascript化するよりもコードの見た目はシンプルなので作りやすい）

WordPressのプラグインは現状のPHP知識 + アルファで作れます。WordPressのショートコードAPIを使えば、ブログエントリ内でAPIへアクセスするプログラムが動かせます。

自作プラグインを使えば、真似されにくいブログエントリを作ったり、リンク切れを防ぐ商品紹介を作ったりなど、可能性が広がります。

プラグインを作る際に最低限必要なことはプラグイン情報（名前とか作者名）を決められたフォーマットで書くことと、ショートコードを定義したり呼び出したりする関数を書くことぐらいです。

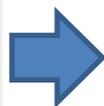
※キャッシュはWP Super Cacheなど他のプラグインに任せてしまいましょう。

※携帯とPCを判別して表示内容やリンク先を変えることも可能です。

プラグイン作成の手順

今までやってきたこと

フォームのパ
ラメータ



プラグイン

ショートコード
のパラメータ

echoで出力



変数に格納し
てreturnする

今までのPHPプログラムとの違いはこれだけ

まずプラグインのテンプレートとなるファイルをコピーして人気のファイル名、フォルダ名でセットを作成します。

その次にapiconfig.phpやapifunc.phpをそのフォルダに入れます。勉強会でいつもやっているようにそれらのファイルを読み込む記述を上の方に書いておきます。

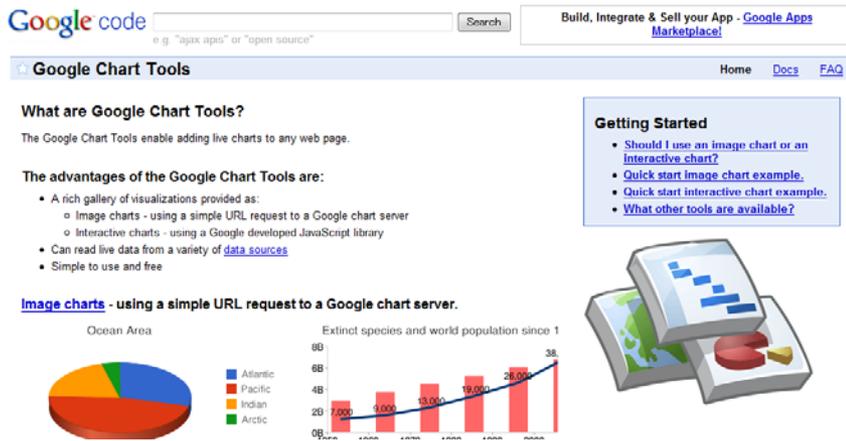
プラグイン名やショートコード名を決めます。作者情報などプラグインのテンプレートに雛型があるのでそこに書き込んでいきます。

あとはショートコード名を定義して、ショートコードから呼び出される関数を書きます。

出力する情報はechoではなくすべて変数に格納してreturnでショートコードに返します。するとショートコードを入れた位置でプラグインからの文字列が出力されます。

QRコード作成

モバイル用のURLがAPIから取得出来るのであれば、それを利用してGoogle Chart APIにリクエストすれば、QRコードを取得できます。



▽参考: [N]「Google Chart API」でQRコードを生成
<http://netafull.net/lifehack/026508.html>



←<http://chart.apis.google.com/chart?chs=150x150&cht=qr&chl=http%3a//musilogg.net/>

Google Chart APIを使えば、imgタグだけでQRコードを生成することができます。もともとはグラフなどを表示する画像生成APIです。

例えば、モバイルで予約や申し込みが出来るサイトに誘導したり、自分が持っている携帯サイトで同じホテルのページを表示するためにパラメータを作ってそのURLのQRコードを生成するなどが考えられます。

特にトラベル系だとホテル情報を携帯に入れておきたいというニーズがありそうなので、自分のサイトやアフィリエイトURLなどをブックマークさせるとマネタイズにつながりそうです。

(アフィリエイトの規約上問題がないかご確認ください)

APIを使えば2万件分のQRコードを自動生成できてしまうという考え方も出来ます。